

袖ヶ浦市郷土博物館の使命

—そではく 35 の展望—

令和5年3月

袖ヶ浦市郷土博物館

袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく 35 の展望—

はじめに

袖ヶ浦市郷土博物館（以下「袖博」という）は、昭和 57 年の開館以来、袖ヶ浦市域はもとより、西上総の歴史・考古・民俗に関する資料を収集・保管・調査研究することで地域の個性や特質を追求し、その成果を展示公開等で情報発信し、「市民とともに歩む」博物館を標榜してきました。

平成 24 年 7 月、開館から 30 年の博物館活動を検証し、袖博が地域博物館として果たすべき役割を 4 つの使命、6 つの活動目標とその活動目標を達成するためのアクションプランとして 30 項目のあるべき姿を設定し、『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく 30 の展望—』として、明示・公表し、点検・評価の基準として取り組んできました。

博物館をとりまく社会情勢が変化する中で、袖博では『そではく 30 の展望』の 10 年の成果を受け、開館 40 周年の節目でもある令和 4 年度に点検・評価内容を確認・修正し、『袖ヶ浦市郷土博物館の使命—そではく 35 の展望—』を提示しました。袖博が地域博物館として果たす 4 つの使命を遂行するための 7 つの活動目標とその活動目標を達成するためのアクションプランとして 35 項目のあるべき姿を設定し、博物館活動の点検と評価の基準とします。

1. 基本目標—ひと・みらい・つながる博物館—

袖博は設立当初から資料収集・保管・調査研究・展示公開・教育普及・情報公開などを着実に進めてきました。また、博物館を取り巻く社会情勢をいち早く捉え、学校教育・地域連携・市民活動の活性化と支援を行い、多くの有識者や市民の意見をもって、「市民とともに歩む」博物館を実践してきました。さらに、博物館の社会的存在理由や社会貢献を明確にするための基本理念を基に「使命」を示し、博物館が「使命」を遂行するための 7 つの取り組みである活動目標を展開します。

2. 基本理念—市民と共に歩み、地域の発展に貢献し、愛される博物館—

袖博が市民活動の場となり、より一層「市民と共に」あり、「市民から必要とされる博物館」でなければならないことを認識するために、地域博物館としての戦略を精査し、社会貢献に取り組めます。

3. 使命

- (1)地域の文化的な個性を探り、継承し、その発信拠点となります。
- (2)市民の学習の場・知的交流の場となって、地域文化の向上につくします。
- (3)市民の生涯学習拠点としての安心・安全な施設を提供します。
- (4)博物館の社会的役割を意識し、地域に貢献します。

袖博は、地域の資料を収集整理し、市民の共有財産として次世代に継承するとともに、調査研究に基づいた常設展示の更新及び企画展・特別展を、市民のニーズも考慮しながら計画的に行います。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、市民活動と一体となった博物館活動を推進して、地域に貢献します。さらに、生涯学習の拠点としての快適な学習環境を整えるため、施設の現状を的確に把握して維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざし、以上の4点項目を使命とします。

4. 活動目標

(1) 地域の資料を守る —資料の収集と保管—

市史編さん事業で収集・管理してきた史料をはじめ、地域資料を継続的に収集整理し、市民の共有財産として適正な環境で保存管理します。また、地域資料の散逸や棄損を防ぎ、保護するため、資料の情報・収集にあたります。

(2) 地域を探り、発信する —調査研究と成果活用—

地域資料の調査研究を推進して、その価値や歴史的な位置づけを明らかにし、その研究成果を市民の知的財産として公開・活用します。

(3) 学習・知的交流の拠点になる—展示更新と情報発信—

地域資料を有効に活用した企画展や特別展を計画的に開催するとともに、市民のニーズを考慮した常設展示の更新計画を推進し、利用者の多様な学習意欲に応えます。また、地域の学習・知的交流の拠点として、さまざまな情報を発信するとともに、調べ学習や個人研究等の質問・相談に対応できる体制を整えます。

(4) 地域のつながりを活かす—市民参画と地域連携—

市民学芸員・友の会員を中心に、市民が博物館活動に参画しやすい体制を構築し、学びの拠点として地域とつながる博物館を目指します。また、地域の学校と連携し、各種学習プログラムを開発して子どもたちの学びをサポートするとともに、世代間交流を促進します。他の社会教育機関・博物館等や地域の企業、NPO等との交流・連携をより強化し、地域連携による新たな価値や経済効果を発見・創造します。

(5) 安心・安全な施設にする—施設の維持管理と来館者への配慮—

市民の快適な学習環境を整えるために定期的に施設の安全点検を行って施設の現状を把握し、メンテナンス・修繕・改修等の計画を立てて維持管理をはかるとともに、安全・安心で誰にも優しい施設をめざします。また、災害・事故に備え、博物館独自の危機管理マニュアルを整備し、定期的に防災訓練を行います。

(6) 博物館の社会的役割を意識する—地域への貢献—

常に博物館として地域から求められる役割を意識し、周辺の施設や大学・研究機関等と連携して、立地を生かした魅力的な事業展開を図ります。周辺の遺跡や歴史文化遺産の把握や解明のため、調査等ができるボランティアを育成し、市民と一体となった博物館活動を推進します。また、博物館の持つ収蔵資料や情報・人材を活用し、市民の健康や福祉についても貢献できるよう努めます。

(7)博物館職員の個性を生かし、能力を伸ばすー自己研鑽と研修参加ー

魅力ある博物館活動推進に向けて、最新の情報を入手し、各自の専門性をより高めるため、職員が研修に参加できる環境を整えるとともに、他機関の学芸員・研究者との交流や研究成果の収集に努め、博物館の業務に還元します。